

法人、個人、地方自治体なども参加できる。都道府県の地域医療構想を達成のための1つの選択肢とされているほか、入院患者の在宅療養生活への円滑な移行や、要介護者の急変時に対応できるような病院と介護施設の連携強化、在宅介護の充実など地域包括ケアシステムの構築にも資するものと考えられている。来月4月2日から始まり、国や大阪府からの情報収集に努めながら本制度の動向を注視していく。

③ まちの防災対策 (特に火災防止) について

【質問】

地震が発生した時に一番問題なのは火災発生だ。池尻で火災が発生したら、道は狭くてポンプ車が入れず、放水が届かないのではとの話を聞かれる。東野、東池尻、池尻の狭い道の場合



所での火災発生時の対応十分か。

【答弁】消防長

消防本部では火災発生時の対応にあつては、火災防御の事前計画の充実を図っている。

現在、消火栓は池尻地区107基、東池尻地区53基、東野地区63基がある。3地区では全ての公設消火栓が設置基準の半径140メートルを満たしている消火車による放水が可能である。また、消火栓以外でも防火水槽やプール並びに自然水利においても利用が可能。

火災発生時には、消防署や消防団が保有している消防用ホースを使用して消火活動を行うようになっていいる。また、総務省消防庁でも糸魚川市大規模火災を踏まえた今後の消防のあり方検討会が開催されている。当消防本部も検討会の結果を検証し、今後とも火災予防、消防活動、消防体制の充実強化を図り、一層の防火に対しての市民啓発に努めてまいります。



④ 救急車と病院間のクラウド型 データ伝送システムについて

【質問】

近大附属病院の或る教授から、救急車から患者のデータを病院の担当医師にインターネットで直接送信するシステムを消防本部とテストをした結果が良かったと伺った。時間を争う患者には大変有効であり、他市に先駆けて採用してはと思うが、テスト結果を伺う。

【答弁】消防長

クラウド型データ伝送システムでは、救急車内から心電図記録を伝送し、病院到着とともに治療を開始することが出来、救命率の向上が期待されている。当本部では昨年8月に1カ月間、近畿大学医学部附属病院心臓血管センターとトライアルを実施。今後、病院から提出される検証結果などを踏まえ、適切に対応していく。

【意見】小原議員

心筋梗塞や脳梗塞は時間を争うので、よく検討して下さい。近大附属病院は300床の中で各科は残るといふことだし、今後も、連携を密にしていきたい。